八雲町地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

八雲町の65歳以上の人口比率は増加しており、今後も加速し続けていくことが想定される。町内全域で公共交通の維持・確保の必要性が近年増しているなか、熊石・八雲間は、高校、JR八雲駅、病院、公共施設、商業施設などの主要施設や、近隣町を結ぶ重要な位置づけにある。令和2年10月より、江差・八雲間の北海道の補助金が打ち切られることとなり、沿線自治体負担での路線維持が厳しいことから、熊石・八雲間の路線を確保する必要があり、交通弱者の移動手段の確保に向け、効率的かつ持続的な公共交通を地域に密着させ、公共交通における利用者の確保を図ることを目的とする。

地域公共交通の現況

・函館バス株式会社（複数自治体路線　3路線）
・JR北海道　函館本線（6駅：八雲、黒岩、山崎、山越、野田生、落部）
・ハイヤー（4社：　有限会社八雲ハイヤー、エスジーハイヤー株式会社、有限会社旭ハイヤー、合同会社キャンタク(福祉輸送)）
・スクールバス
・患者輸送バス

生活交通確保維持改善計画の目標

１日平均乗車人数　１８人／日
（※参考　函館バス江差八雲線　令和2年度実績１８人／日）

車両取得に係る定量的な目標についても上記と同様。

協議会開催状況

〇令和４年６月２４日　第１回会議開催（書面開催）
・地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について
〇令和４年１１月２２日第２回会議開催
・公共交通実証実験について
〇令和５年１月１７日第３回会議開催
・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

令和４年度事業概要

〇熊石八雲間予約バス
運行形態　：デマンド型フィーダー路線
運行事業者：有限会社　八雲ハイヤー
運行状況　：１日５便（往路２便、復路３便）
（１月１日～３日のみ運休）

運賃（往復片道　中学生以上）
熊石エリア～八雲エリア　1,000円
熊石エリア～峠エリア　500円
八雲エリア～峠エリア　500円
熊石エリア内　200円

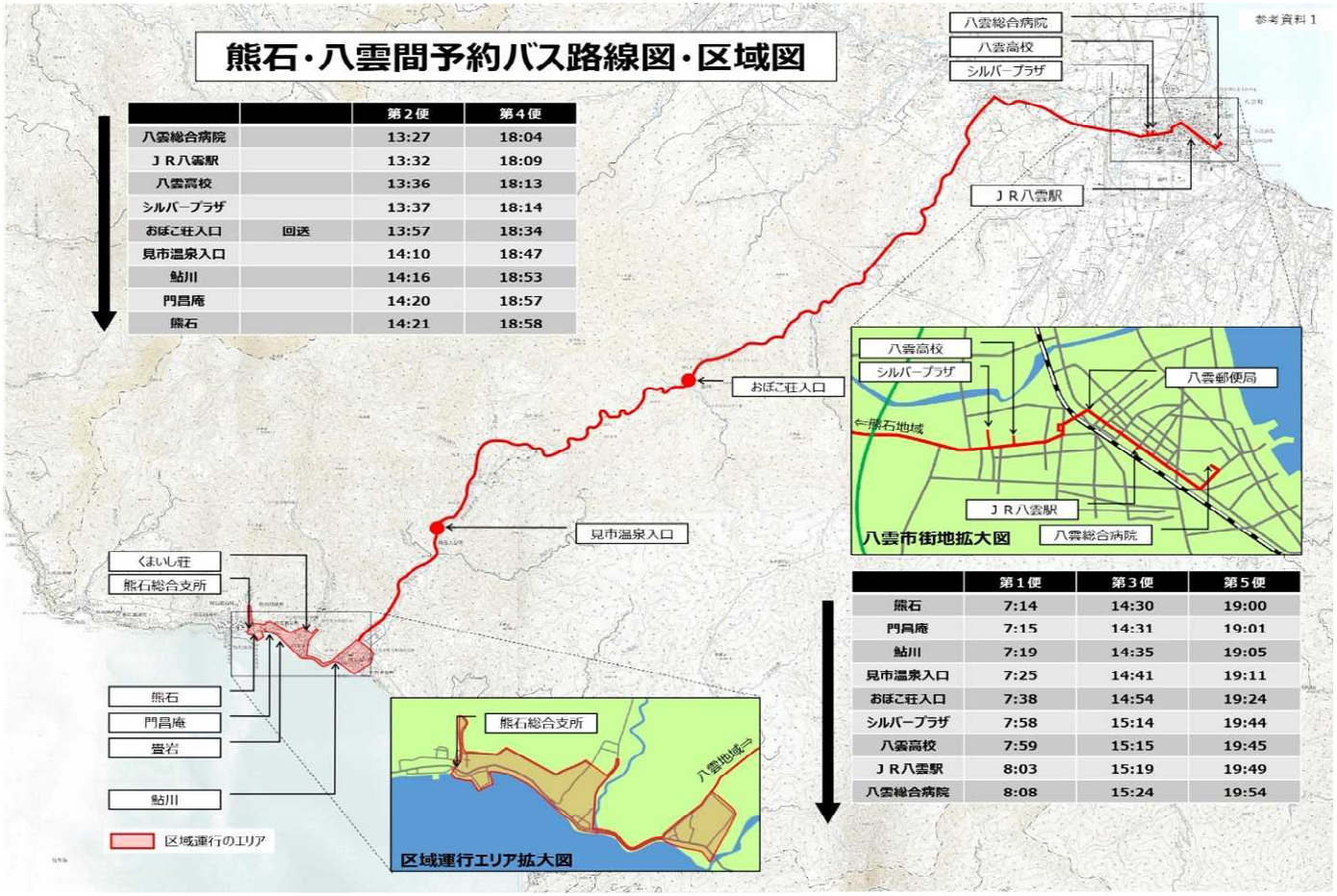
※障がい者割引あり

令和４年度事業の実施状況

１）プロセス、創意工夫

・住民説明会を熊石地区2回、八雲地区1回、計3回行った。
・町内広報誌や運行地区のメインとなる世帯（熊石地域）への時刻表を配布・防災無線での住民周知を行った。
・町のホームページ周知や各町内施設等に時刻表の設置などを行った。

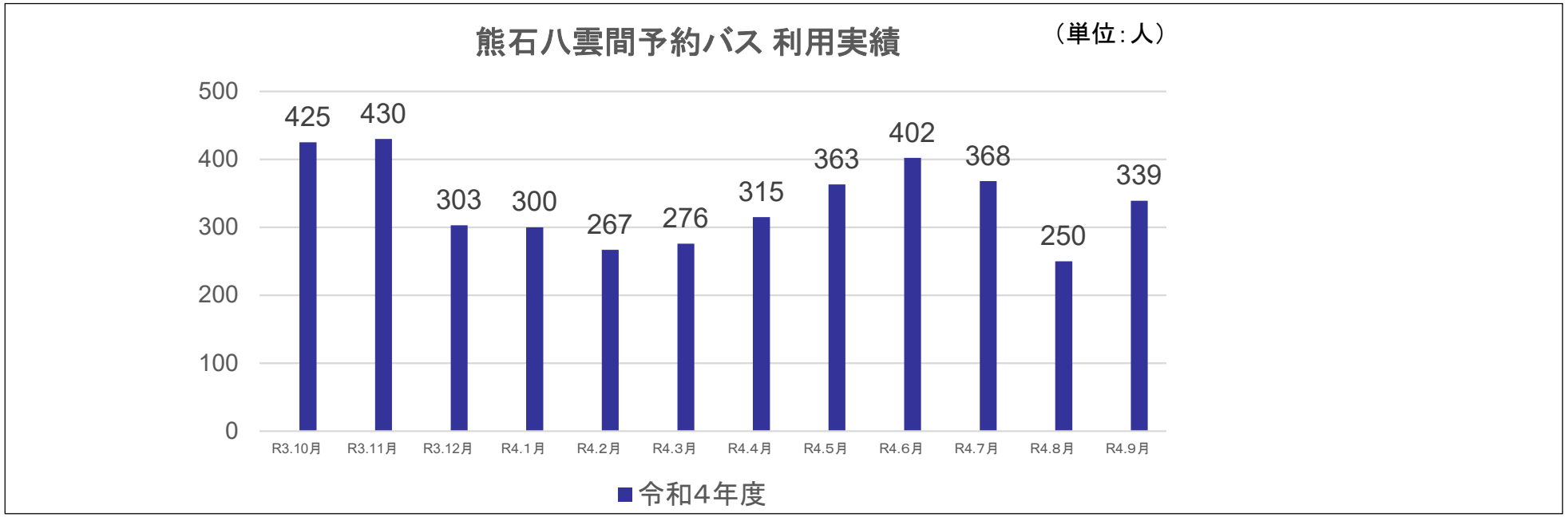
２）運行系統



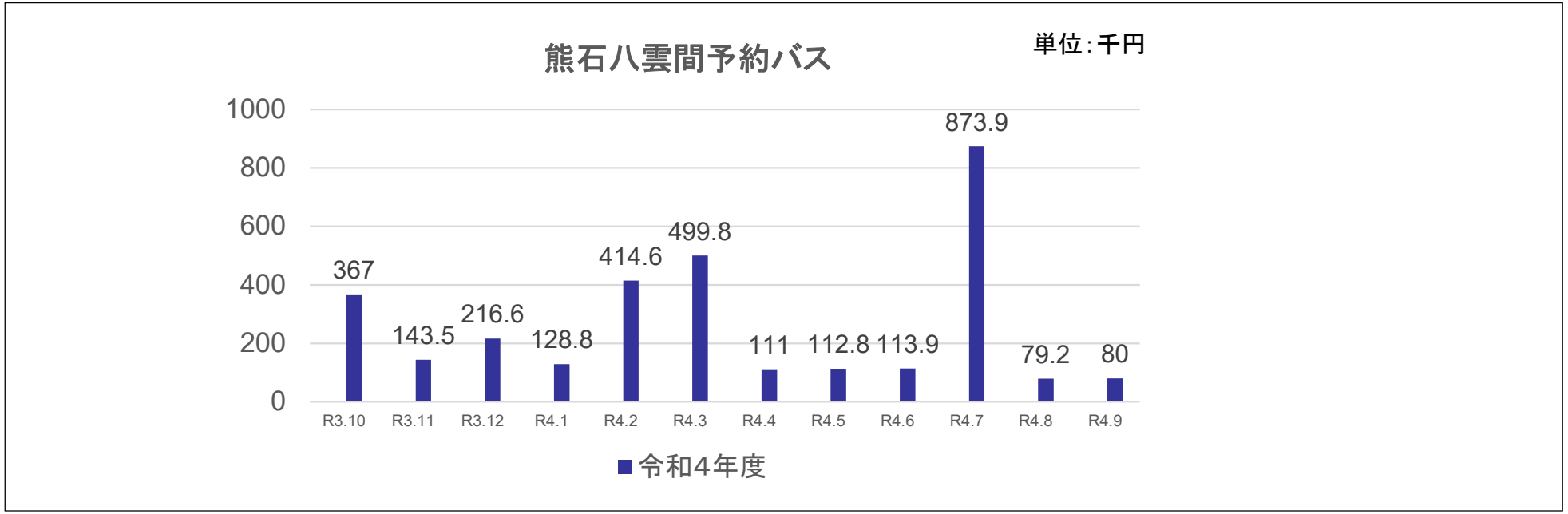
		第２便	第４便
八雲総合病院		13:27	18:04
ＪＲ八雲駅		13:32	18:09
八雲高校		13:36	18:13
シルバープラザ		13:37	18:14
おぼこ荘入口	回送	13:57	18:34
見市温泉入口		14:10	18:47
鮎川		14:16	18:53
門昌庵		14:20	18:57
熊石		14:21	18:58

	第１便	第３便	第５便
熊石	7:14	14:30	19:00
門昌庵	7:15	14:31	19:01
鮎川	7:19	14:35	19:05
見市温泉入口	7:25	14:41	19:11
おぼこ荘入口	7:38	14:54	19:24
シルバープラザ	7:58	15:14	19:44
八雲高校	7:59	15:15	19:45
ＪＲ八雲駅	8:03	15:19	19:49
八雲総合病院	8:08	15:24	19:54

３）利用実績


熊石八雲間予約バス 利用実績
（単位：人）
500
400
300
200
100
0
425
430
303
300
267
276
315
363
402
368
250
339
R3.10月
R3.11月
R3.12月
R4.1月
R4.2月
R4.3月
R4.4月
R4.5月
R4.6月
R4.7月
R4.8月
R4.9月
令和4年度

４）収入実績


熊石八雲間予約バス
単位：千円
1000
800
600
400
200
0
367
143.5
216.6
128.8
414.6
499.8
111
112.8
113.9
873.9
79.2
80
R3.10
R3.11
R3.12
R4.1
R4.2
R4.3
R4.4
R4.5
R4.6
R4.7
R4.8
R4.9
令和4年度

５）事業実施の適切性

計画通り、事業は適切に実施された。

６）目標・効果達成状況

【事業目標】

・１日平均乗車人数　１８人／日

（函館バス江差八雲線令和２年度実績をベースに目標値を設定）

【年間利用実績】 R3.10～R4.9　 4,038名

１日平均乗車人数　11.2名　　目標達成率　62.2%

　事業の実施により、主に八雲高等学校へ通う生徒の通学の足を確保することできた。 運休日である１月１日～３日以外は、ほぼ毎日稼働はしているものの、高校生の通学で利用される便以外は、利用人数が少ない便や稼働率が悪い便もあり、目標の１８人／日までにはいたらなかった。

※生活交通確保維持改善計画と車両に取得に係る定量的な目標値についても同様。

７）事業の今後の改善点

・利用人数が少ない便＝高校生の通学利用で利用されない便（２便、３便、５便） の１回の運行あたりの人数を増やすため、その他公共交通機関との乗継や利用例をホームページや広報等で周知するなど、利用者促進を図る。

・「事前予約制バス」の住民認知をあげるため、定期的に広報や町公式LINE等を使用するなど、情報発信に取り組む。

・高校生の通学を主として、ダイヤ設定を行っているが、必要に応じて、既存交通事業者とも協議を図りながら、ダイヤや運行区域について検討する。

８）地方運輸局における二次評価結果

- 自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- 目標を達成することはできなかったが、今後の改善点として認識している利用人数が少ない便の分析・検証により、利用者ニーズのくみ上げを行うとともに、引き続き地域公共交通網形成計画に基づいた更なる利用促進の取組を期待する。
- 持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。